

児童期における規範の領域の違いが集団規範に及ぼす影響

○鶴川春菜・井上弥
(広島大学大学院教育学研究科)

問題と目的

ト部・佐々木(1999)は、中学生・高校生・専門学校生を対象とし、授業中の私語の多さと集団規範に関係があることをリターン・ポテンシャルモデルを用いて検討している。規範についてTuriel(1983)は社会的領域理論を提唱し、規範には人との関連についての公正、権利、および福祉の概念である道徳領域、特定の社会的システムの文脈に縛られた概念である慣習領域、個人の心理学的なシステムの概念である個人領域の3つがあるとされている。規範領域が異なれば、集団規範の様相は異なると考えられるが、規範領域の違いに着目して集団規範を検討した研究は見当たらない。そこで本研究では、領域の異なる規範に対する集団規範の強度などの様相を、リターン・ポテンシャルモデルを用いてとらえ、児童期において領域の違いが集団規範に及ぼす影響を検討した。

方法

調査対象者 小学4,6年生4学級の児童137名。
質問項目 (1)私語の集団規範尺度 ト部・佐々木(1999)の質問内容と同様に、5つの私語に関する行動(1授業に関係のあることを、小さい声で隣の人に尋ねる、2授業に関係のないことを、小さい声で隣の人に話す、3授業に無関係なことを、時々、周りに聞こえるような声で話す、4授業に無関係なことを、授業中ずっと、周りに聞こえるような声で話す、5おしゃべりせずに授業を聞く)ごとに、「あなたの授業中の行動に対してクラスの友だちがどう思うか」について、「よいと思うだろう」から「かなりまずいと思うだろう」の5件法で評定を求めた。(2)私語の私的見解尺度上記の5つの行動ごとに、「クラスの友だちの行動に対してあなたはどうか」について、「よいと思う」から「かなりまずいと思う」の5件法で評定を求めた。(3)私語の規範領域の認知尺度①学校のことをよく知らない転校生である場合、②先生が「授業中におしゃべりしてもよい」と言った場合、③クラスのみんなで「授業中におしゃ

べりしてもよい」と話し合いで決めていた場合の3つの場面ごとに、「よい」、「どちらともいえない」、「悪い」の3件法で評定を求めた。

結果

私語の規範領域の認知尺度において、「よい」を1、「どちらともいえない」を0、「悪い」を-1とし、表1のように群分けを行った。

表1 領域の認知の群

	道徳領域			慣習領域			一貫してどちらでもない群	混合領域群
	高群	中群	低群	高群	中群	低群		
	-1	0	0	1	1	1	0	1
	-1	-1	0	-1	1	0	1	0
	-1	-1	-1	-1	1	0	0	-1
N=	27	23	62	0	1	6	6	12

集団規範の強度の認知において、道徳領域高群 > 低群 ($p < .05$), 道徳領域高群 > 混合領域群 ($p < .05$) において差が見られた。

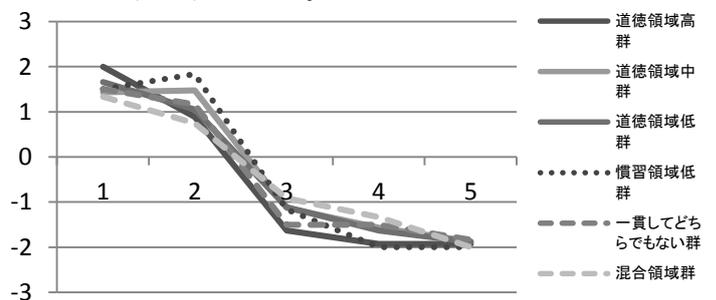


図1 リターン・ポテンシャル曲線

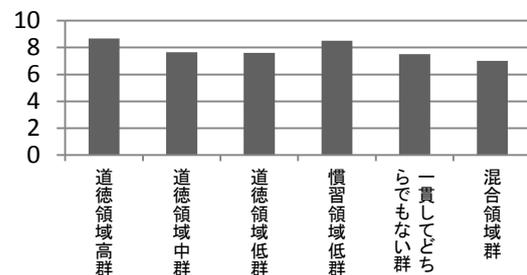


図2 集団規範の強度の認知得点

考察

規範を道徳領域だと思っている程度の高さが集団規範の強度の認知の大きさに影響している。また、規範を混合領域だと思っている人よりも道徳領域だと強く思っている人の方が集団規範の強度の認知が大きくなると思われる。